作品賞　尾道市本庁舎

建物外観１（撮影：SATO PHOTO 佐藤和成）

建築概要

建 設 地：広島県尾道市久保一丁目 15-1
建 築 主：尾道市
設　　計：株式会社日建設計
施　　工：清水建設・佐藤工務店・大宝組
建築面積：4,156m²
延床面積：14,497m²
階　　数：地上５階、地下１階
高　　さ：23.35m
構造種別：鉄骨造

選評

街に優しく、海に迫り出す平行四辺形立面の構成に合わせて、斜め柱による外郭トラス構造とその柱脚部での免震構造を採用したことが最大の特徴となっている作品。敷地のコンテクストに合わせた空間構成とファサードにも浮かび上がる大組のトラスがデザイン的にもマッチしており、全体コンセプトとしてストンと腑に落ちる思想で纏められている点が高く評価された。

地震力の大半を外郭トラスで負担し水平変形を抑制しながら、免震構造と組み合わせることで BCP 対策の強化と各部材の最小化を実現しており、眼前に広がる尾道水道や対岸の向島の景観を取り込む心地良い市民スペースを生み出している。また、地下１階柱頭免震の採用により掘削ボリュームを抑制することに加え、近接する護岸部分への影響を避けるために基礎形状を段々状に計画する等、細部への配慮の面でも工夫が見られる。

造船業が盛んな街のイメージを建築デザインに取り込む仕掛けとして、曲面の大判鋼板パネルを外装材に採用し、造船業特有の溶接技術と免震構造の相乗効果を活かしたモノコック感のあるフォルムは、造船の街を特徴付ける客船のような市庁舎として、尾道市の象徴となり永く市民に愛される施設になることが予想される。

（大西 宏治）

建築主：尾道市
設計者：株式会社日建設計　　大河　肇、田代靖彦、軸丸久司
　　仁科誠治、末國良太
施工者：清水建設・佐藤工務店・大宝組

免震・制振化した経緯及び企画設計等

尾道市本庁舎は昭和 35 年竣工の旧庁舎、昭和 38 年竣工の公会堂などの老朽化に伴い、同敷地に建替えを行った新庁舎である。庁舎は災害時の防災拠点として高い耐震性が求められた。また、尾道は千光寺をはじめとした多くの寺社や住宅と港を結ぶ入り組んだ路地・坂道を有した箱庭的都市である。観光の盛んな街でもあるため、庁舎は防災拠点だけでなく観光拠点となることも求められた。免震構造を採用することで建物に作用する地震力を低減し、耐震性と印象的な外観（外周鉄骨トラス架構・外装鋼板）を兼ね備えた建物を実現した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

街側への圧迫感を低減しつつ海に近づけるコンセプトのもと、建物を立面的に平行四辺形形状とし、外周鉄骨トラス架構を採用した。免震構造によって斜材のサイズを低減し、軽やかで印象的な外観を実現した。

鋼板で形成した外装・庇は、客船をモチーフとした外観のために曲面を有する形状としている。造船業は尾道の地場産業であり、鋼板の曲面加工を得意とすることから、外装および駐車場庇は造船会社での製作とした。それぞれ複雑な曲面を持つ部材であり、造船が得意とするぎょう鉄を用いることで 12mm の仕上材兼用の鋼板加工・形成を実現した。免震構造による水平震度低減と海上輸送によって１ピース最大 18m とし、目地の数を最小化して客船ならではのモノコック感を実現した。

左：建物外観２、右：建物内観（撮影：SATO PHOTO 佐藤和成）